

検査項目説明

身体計測	
BMI	肥満の程度を判定するための数値です。BMI＝体重（kg）÷身長（m） ² 。 18.5 未満はやせ、25 以上だと肥満です。
標準体重	標準体重（kg）＝身長（m） ² ×22。BMI＝22 をもって標準体重としています。
肥満度	肥満度（％）＝（実測体重－標準体重）÷標準体重×100。
体脂肪率	体重に対する体脂肪の割合です。体に微弱な電流を流し、その抵抗性によって体脂肪率を測定します。
腹囲	男性 85cm、女性 90cm 以上を内臓脂肪型肥満の目安にしています。



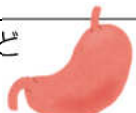
呼吸器系	
肺活量	思いきり息を吸って、時間をかけてゆっくりと全部吐き出した時の呼気量です。
努力性肺活量	思いきり息を吸った後、一気に吐き出した時の呼気量です。
1 秒量	肺活量中の最初の 1 秒間に吐き出した呼気量です。
1 秒率	1 秒間に吐いた息が、最後まで吐いた息の何％を占めるか表したものです。
予測肺活量	性別・年齢・身長より算出した、本来これだけあるべきと考えられる肺活量です。
％肺活量	予測肺活量に対する実際の肺活量のパーセンテージです。
最大呼気流量	できる限り深く息を吸い込んだ後、できるだけ速く吐き出した時の息の速さです。
胸部レントゲン	肺炎、肺結核、肺癌、肺気腫、胸水、気胸など、呼吸器の疾患の有無を調べます。 また、肺の全体像や大血管の走行、心臓や横隔膜等の形状や、骨の状態なども調べます。



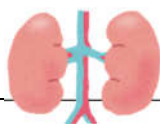
循環器系	
血圧	「最高（収縮期）血圧」は血液が心臓から送り出される時の血圧で、「最低（拡張期）血圧」は血液が心臓に戻る時の血圧です。高血圧が持続すると動脈硬化を招きやすく、心筋梗塞や脳卒中などの合併症を引き起こす要因になります。
心拍数	心臓の拍動による動脈内圧の変動とそれに伴う動脈血管壁の波動です。普通は橈骨（とうこつ）動脈で触診します。
心電図	心臓の拍動のリズムの異常や心筋梗塞、狭心症、心肥大、不整脈等の、心臓の異常や状態を調べます。



胃腸系

食道・胃・十二指腸 内視鏡検査	食道・胃・十二指腸を内視鏡で観察・撮影して、潰瘍、ポリープ、癌などの有無を調べます。	
便潜血	便に混じる血液の有無から大腸癌や大腸ポリープからの出血のスクリーニング検査として重要です。	
CEA	腫瘍マーカーの1つです。主に大腸癌、膵癌、肺癌などで上昇します。長期喫煙、糖尿病、肝炎などでも上昇することがあります。	


腎臓・泌尿器系

尿 PH	通常は、弱酸性を示しますが、食事の内容や疾患によって酸性やアルカリ性に傾くことがあります。	
尿糖	尿に含まれるブドウ糖のことです。血糖値が高くなり過ぎて一定の値を超えると、尿にも糖が漏れ出てくるようになるため、糖尿病の進行具合を判断することができます。	
尿蛋白	尿中の蛋白により、腎臓や尿路の異常を判定します。	
尿潜血	尿中の赤血球のヘモグロビンから腎臓や尿道等尿路系統の病気の有無を調べます。	
尿ウロビリノーゲン	肝臓、胆嚢、胆道系に障害があると、尿中のウロビリノーゲンが異常となります。	
尿沈渣	尿中の有形成分（赤血球、白血球、上皮など）を顕微鏡で観察し、存在の有無や程度を調べる検査です。主に、腎臓や尿路の炎症、腫瘍、結石などの病気を診断する手がかかります。	
尿素窒素	蛋白質の代謝産物で、腎臓から尿中に排泄されます。腎機能が低下すると、血液中の尿素窒素が上昇します。また、蛋白質をたくさん摂った時や、脱水の時にも高値になります。	
クレアチニン	血液に含まれる老廃物の1つで、腎臓から尿中に排泄されます。腎臓機能障害がある時血液中に蓄積され、高値になります。	
eGFR (推算糸球体濾過量)	クレアチニン値、年齢、性別から計算します。どれくらい腎臓に老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示し、この値が低いほど、腎臓の機能が悪いということになります。	
PSA (男性のみ)	前立腺癌発見のための検査です。前立腺癌で上昇します。また、前立腺肥大や急性前立腺炎などでも上昇します。	

血中脂質系

総コレステロール	血液に含まれるコレステロールの総量です。多すぎると動脈硬化を起こし、脳卒中、心筋梗塞などの原因をつくります。
中性脂肪	主にエネルギーとして利用され、余りは脂肪として主に肝臓に蓄積されます。食べ過ぎ、飲み過ぎ、肥満によって高値になり、糖尿病、動脈硬化、心筋梗塞、脳血管障害等の生活習慣病の因子となります。
LDL コレステロール	悪玉コレステロールともいいます。多すぎると血管の内側に付着して固まり、動脈硬化を進行させます。さらに血管を塞いで血流を遮断し、心筋梗塞や脳梗塞を引き起こす原因になります。
HDL コレステロール	善玉コレステロールともいいます。血液中の余分なコレステロールを肝臓へ運んで排泄・処理する働きがあり、動脈硬化を予防します。
Non-HDL コレステロール	Non-HDL コレステロールは、総コレステロールから善玉のコレステロールであるHDL コレステロールを引いた残りの脂質です。 Non-HDL コレステロールは、循環器疾患の新たな指標として注目されています。

肝臓・胆のう・膵臓系

AST	心筋、肝臓、骨格筋等に多くある酵素で、この数値が高いと肝臓や時に心臓、筋肉などの臓器の異常や障害が疑われます。	
ALT	肝細胞にもっとも多く含まれ、この数値が高いとウイルス性肝炎、アルコール性肝炎、脂肪肝などの肝障害が疑われます。	
ALP (アルカリホスファターゼ)	ほとんどの臓器に含まれている酵素です。肝臓、骨、小腸、胆道などに障害が起これると異常値を示します。	
LDH (乳酸脱水素酵素)	ほとんどの臓器に存在し、糖がエネルギーに変わる時に働く酵素です。主に心筋、肝臓、骨格筋の障害で上昇します。	
総ビリルビン	赤血球の破壊によって遊離するヘモグロビンなどに由来する黄色物質（胆汁色素）です。まず肝臓に取り込まれて分解され、胆管から十二指腸に排泄されます。肝臓や胆道の疾患で上昇し、上昇すると黄疸になります。	
直接ビリルビン	直接ビリルビンは、肝臓で作られたあと胆汁中に排泄されますが、肝炎などの肝疾患により胆管までの過程で排泄障害が起きていたり、胆管系疾患により胆管が閉塞されてしまう場合に高値を示します。	
ChE (コリンエステラーゼ)	コリンエステラーゼ。肝細胞で生産されるタンパク質です。高栄養状態、脂肪肝、糖尿病、ネフローゼなどで上昇し、肝疾患や低栄養状態、慢性消耗性疾患で低下します。	
γ-GTP	肝臓や胆道に障害があると数値が高くなります。AST、ALT はそれほど高くなく、この数値だけが高い時はアルコール性肝障害が疑われます。	
血清アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素です。膵臓や唾液腺に障害があると血液中に出てきます。膵炎や胆嚢炎、耳下腺炎などで上昇します。	
CK (クレアチンキナーゼ)	骨格筋の障害、心筋梗塞や心筋炎などの心筋の障害、甲状腺機能障害で異常値が出ます。	

総蛋白	血清中に含まれるアルブミンとグロブリンの和をいいます。肝臓・腎臓の機能をみます。また栄養状態の指標としても利用されます。
アルブミン	総蛋白の約 67%を占める蛋白質です。血液中のさまざまな物質を運んだり、体液の濃度を調整する働きをします。肝臓でのみ合成され、肝機能の重要な指標となります。
A/G 比	血清中のアルブミンとグロブリンという蛋白質の比率です。
AFP	腫瘍マーカーの 1 つです。原発性肝臓癌、肝炎、肝硬変などで上昇します。
CA19-9	腫瘍マーカーの 1 つです。主に膵臓癌、胆道癌、大腸癌で上昇することがあります。
腹部超音波検査	腹部に超音波を発信し、その反射波（エコー）を利用して画像化・解析する検査です。肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓などの状態を調べます。
フィブロスキャン検査 (肝硬度・脂肪肝検査)	肝臓の硬さ（肝線維化）を非侵襲的に測定します。 肝臓の硬さ、脂肪量を把握することで、肝硬変や肝癌の発生予防や早期発見に役立ちます。 また、メタボリックシンドロームの診断にも役立ちます。




代謝系

空腹時血糖	空腹時の血液中にあるブドウ糖の値です。高値は糖尿病を示します。
ヘモグロビン A1c	過去 1~2 ヶ月の平均的な血糖の状態がわかります。また、血糖と違い食事の影響を受けないためいつでも検査でき、糖尿病を疑われた時の検査に有効です。
尿酸	基準値より高いと高尿酸血症といい、痛風の原因になります。また腎障害の原因にもなります。
Na・K・Cl	体内の電解質で、腎臓病、心臓病、内分泌疾患、脱水症状などで異常値となることがあります。


血清反応

梅毒反応 RPR 法 TP 抗体	梅毒反応の有無を調べる検査です。梅毒以外の原因でも陽性になることがあるので、確認のためにはさらにいくつかの検査が必要です。治療が終わっていても検査に対する反応だけが残り、陽性になることもあります。
CRP	体内に炎症が起こり、組織が壊れた時に血液中に増える一種の蛋白質です。
HBs 抗原	陽性の時、B 型肝炎ウイルスに感染していることを示します。
HBs 抗体	陽性の時、過去に B 型肝炎ウイルスに感染し、その後治癒した(B 型肝炎ウイルスが排除された)ことを示します。B 型肝炎ワクチンを接種した場合や、HBIG(高力価 HBs ヒト免疫グロブリン)投与後などにも HBs 抗体陽性となります。
HCV 抗体	陽性の時、現在 C 型肝炎ウイルスに感染しているか、過去に感染した可能性を示します。
HIV 検査	HIV 感染の有無を調べる検査です。

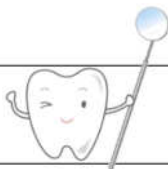
血液系

赤血球数	血液中の赤血球数を検査し、貧血や多血症の有無を調べます。	
ヘモグロビン	血色素。この数値を貧血の目安とします。	
ヘマトクリット	血液中にどれくらいの割合で赤血球が含まれているかを調べ、貧血のチェックをします。	
MCV	平均赤血球容積。[ヘマトクリット値(%) ÷ 赤血球数(10 ⁶ /mm ³)] × 10	
MCH	平均赤血球ヘモグロビン量。[ヘモグロビン(g/dℓ) ÷ 赤血球数(10 ⁶ /mm ³)] × 10	
MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度。[ヘモグロビン(g/dℓ) ÷ 赤血球数(10 ⁶ /mm ³)] × 10	
白血球数	白血球は細菌などから体を守る働きをします。数値が高い場合は体のどこかに細菌感染症や炎症、腫瘍の存在が疑われます。喫煙でも高値になります。	
血小板	出血を止める働きをします。数が少なすぎると出血しやすくなり、血が止まりにくくなります。	
血液像	白血球の種類のを割合を調べます。炎症のタイプの分類や白血病の診断に役立ちます。	

耳鼻咽喉科


聴力検査	 1000Hz(低音域)と 4000Hz(高音域)で、どの程度の強さで音が聞こえるかを測定し、聴力低下の有無を調べます。4000Hz(高音域)の聴力は年齢と共に低下しやすくなります。
平衡機能検査	三半規管や視覚、深部知覚(関節や筋肉などが備えている受容器の働きで、目を閉じているときでも関節の曲がり具合や手足の位置などがわかること)などを調べて、平行機能が正しく働いているかどうかを調べる検査です。

歯科

味覚検査	電気味覚検査。電気味覚検査は味を感じる神経が正常に機能しているかを調べます。味を感じる化学物質の代わりに微弱な電流を舌と軟口蓋に流して刺激を与え、どれくらいの強さの刺激で反応するかを測定します。	
唾液量検査	サクソテスト。乾燥したガーゼを口に含み2分間一定の速度で噛み、ガーゼに吸収される唾液量を測定します。ガーゼに吸収された唾液量が2g以下の場合、唾液量が少ないと判定されます。	
口臭検査	簡易測定器ハリメーターを用いて、口臭の主な原因となっている物質である、揮発性硫化化合物を検出しています。	



オプション検査

頭部 MRI・MRA 検査	MRI は、電磁波に共鳴しやすい水素の性質を利用した検査で、体内の水素原子核に電磁波を送って磁気共鳴させて画像化します。主に脳腫瘍、脳梗塞などの発見に役立ちます。MRA は、血管のみを立体的に抽出した検査で、血管のようすがわかる立体画像を作ることが可能です。くも膜下出血、脳動脈瘤など脳内血管障害の発見に用いられます。
胸部 CT 検査	CT(コンピューター断層撮影装置)。胸部 CT 検査は、胸部をらせん状に X 線撮影し、コンピューターで分析、人体の横断面を画像に写し出す検査です。胸部 X 線では心臓や血管の後ろに隠れているがんを発見するのは困難ですが、胸部 CT は心臓や血管に隠れた肺癌や小さな癌を発見するのにも有用です。
腹部・骨盤部 CT 検査	この検査によって、お腹から骨盤の臓器を横断して写し出します。肝臓・胆のう・膵臓・腎臓の疾患を主に診断できます。
骨密度測定 	骨密度とは骨塩量や骨塩定量、骨量とも呼ばれ、言葉の通り骨の密度を表します。骨に存在するミネラル(カルシウムなど)が、どの程度あるかという単位面積あたりの骨量を示し、骨の強度を表します。
ピロリ菌抗体検査	血液中のピロリ菌に対する抗体の有無により、ピロリ菌に感染しているかどうかを調べます。
喀痰細胞診	痰の中の細胞を顕微鏡で調べ、悪性細胞の有無をチェックします。肺門部や気管支の癌のスクリーニングに有効です。
大腸内視鏡検査	全大腸を内視鏡で観察・撮影して、潰瘍、ポリープ、癌などの有無を調べます。
マンモグラフィ検査	乳房のレントゲン検査です。乳癌などの乳腺疾患の有無を調べます。 当院マンモグラフィは、最新装置で 3D(トモシンセシス)撮影が可能で、従来の 2D 撮影より精度の高い検査を行います。
睡眠時無呼吸症候群検査	睡眠時無呼吸症候群スクリーニング検査です。ご自宅に届いた計測装置を睡眠時につけていただき、血液中の酸素の状態と脈拍数から睡眠中の無呼吸を予測します。そのデータから睡眠時無呼吸症候群の疑いの有無を調べます。

